
流星と27の紋章

WIZ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星と27の紋章

【ZINE】

Z0501P

【作者名】

WIZ

【あらすじ】

もしロックマンの世界に幻想水滸伝の紋章があつたら……。
そんな作者の妄想を文章にしました！舞台はスバルたちがメテオG
を止めたあの「ダマタウン」です。

この小説は読んで下さっている方がロックマンも幻想水滸
伝も知ってるという前提で話を進めます。ご了承下さい。

プロローグ（前書き）

はじめまして、WIZです。
この小説が初めてなので何かアドバイスをいただけるとうれしいです。

それではどうぞ！

プロローグ

此処は何処だろうか？

なにもない真っ白な世界の中に一人の女性がいた。

「また、新たな戦いが始まるのね。」

女性が呟くと、とある街の風景が現れた。

その街の名は「ダマタウン」。

今まで何度も地球を救った英雄のいる街。

この街で新たな戦いが始まろうとしている。
世界の運命と27の紋章を賭けた戦いが。

~~~~~

ここは「ダマタウン」。

「行つてきま～す。やばい！ 遅刻だ～～～。」

一人の少年が慌てて家を飛び出した。

## プロローグ（後書き）

今回出て来た女性は幻想水滸伝でおなじみの戦いが始まると主人公の前に現れるあの人です！

更新はあまり早くないので少しずつやつけていきたいと思います。

## 第一話～遅刻ギリギリ～

「「ダマ小学校」

「はあ～～。なんとか間に合つたよ。」

『つたく毎日寝坊しやがつて。起こす俺も大変だよ、スバル。』

スバルと呼ばれた少年はハンターV.Gにむかつて、  
「悪かつたよウォーロック。次から気をつけるから。」

と、ハンターのなかの相棒に謝つた。

そうこの星河スバルとウォーロックが電波変換した姿こそあの英雄  
ロックマンなのだ。

夕また遅刻ギリギリだつたじやない！いい加減早起きしなさい！

「ごめんなさい委員長。」

「早起きしろよスバル。」

スバルに怒っているのはスバルたちのクラスの委員長である白金ル  
ナ。そして一緒にいるのは牛島コンタと最小院キザマロ。

言い忘れていたがスバルたちは小学6年生だ。

「まったく、今日から転校生が来るつていうのに。」

「えつ！転校生が来るの、委員長。」

「そうよ。でも誰が来るかはしらないわ。あつ、先生が来たわよ。」

「皆、席に着きなさい。今日から新しい友達がこのクラスに加わり  
ます。さあ入つてきて。」

『おい、スバル。トビラに向こうにハープがいる。』

「えつーじゃあ転校生ってこいつのはまなか……。」

## 第一話～遅刻ギリギリ～（後書き）

転校生は定番のあの人です！  
わざこのあとどうなるのでしょつか、続きをどうぞー。

## 第2話～転校生～

先生に呼ばれてピンク色の髪の女の子が教室に入ってきた。

「ベイサイドシティから来ました響ミソラです！よろしくね！」

クラスのみんなは驚きで声が出なかつた。

「みんな、黙つてないで拍手で迎えてあげたら？」

「うう、そうだつたわ。ミソラちゃん私たちのクラスへようこそ！」

みんなは盛大に拍手した。

「さて響さんの席は…………」

その瞬間、男子たちが自分の隣の席に来るのを期待したが、

「私、スバル君の隣がいいです！」  
と言つと、早速スバルの隣にいき、

「よろしくねスバル君！」

「あっ、うん。よろしくミソラちゃん。」

『久しぶりねウォーロック。』

『ケツ、めんどくさいのが来やがつた。』

スバルはこの時男子+ルナからの殺氣を感じていた。

休み時間、ミソラはクラスメイトからサインなどを頼まれていてスバルたちは話しかけることができなかつた。  
そして放課後帰り道でルナがミソラに、

「そういえばミソラちゃん。何でゴダマタウンに来たの？」  
と聞くとミソラは、

「それはね、この近くでの仕事が多いからこっちに引っ越すことになつてこの小学校に通うことにしてたの。それにこっちのほうが友達が多いしね。」

「ふうん、お仕事大変だねミソラちゃん。何かあつたらすぐ相談してね。」

「そうだぞ。俺にも相談しろよ。」

「そうですよ。僕にも相談してください。」

「そうよ。女の子にしか話せない悩み事も有るしね。」

「ありがとうございます。それじゃあまた明日～。」

「また明日～。」

ルナたちと別れ、残るはスバルとミソラだけになつた。

「そういえばミソラちゃん。君は何処に引っ越すの？」

「えつ、聞いてないの？スバル君の家だよ。」

「ええ～。聞いてないよ。母さん内緒にしてたな。」

## 第2話～転校生～（後書き）

なんか中途半端なような……

それはそれとして作者はこれからテスト勉強なのでなかなか更新できません。

ちなみに高校生です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0501p/>

---

流星と27の紋章

2010年12月13日18時39分発行